

Bartinov Focusing Maskを作る 天候のすぐれない梅雨の楽しみ

最近、直焦点撮影のピントあわせの小道具として、パーティノフ・マスクというツールが市販されています。

名前はたいそうですが、構造を見ると、単にレンズフードにスリットを入れただけのもので、わざわざ高価な市販品を買うまでもなく、案外簡単に作れそうです。試しにウェブで検索すると、いくつものサイトがヒットしてきて、例えば、Astrojargon というサイトでは、使用するレンズの仕様を入力すると、最適な型紙の PDF ファイルを作成してくれる便利なページが紹介されています。また、これらの型紙をもとにマスクを試作したレポートなども数多くあり、情報は豊富です。そういったサイトの中には、例えば、OHP シートに型紙を印刷してそのままピント出しに試用したケースなど、「これはあんまりではないか」というようなものもあって、一度実際に試して見たいという気持ちが高まってきました。



さて、実際に作るとなると切抜きするパターンが印刷できてカッターで何本ものスリットを容易に切り抜くことができる材料を探さなくてはなりません。最初は、先の OHP シートで試作しようとしたものの、案外に工作が難しく、結局、厚手の工作紙を使用することになりました。

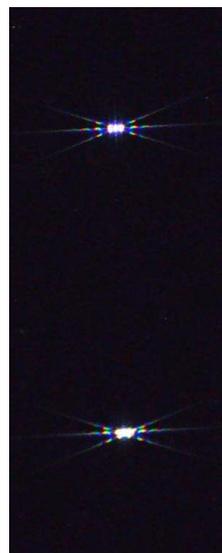
試作したのは口径 105mm の Pentax 105EDHF 用で、先のウェブサイトで作成したパターンを工作紙に印刷し、カッターでスリットを切り抜いた後にニススプレーをかけ、CD-R のケースを加工したフレームにはめ込みました。かくして、ほとんど費用をかけずに市販品並みのマスクの出来上がりしました。

この工作の難所はなんといってもスリットの切抜きです。すべてを平行にきれいに仕上げるにはとても根気が必要で、へこたれそうになりながらようよう作り上げました。

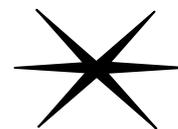


屈折望遠鏡に装着した状態

さて、ここから試用ということになるのですが、残念ながら雨続きで、ようやく現れた晴れ間を捉えてベランダに望遠鏡を出し、使い心地を確認しました。



焦点が合っている状態



クロスした回折像のちょうど真ん中にもう1本の回折像があります。

焦点がずれている状態



クロスした回折像の中心と、もう1本の回折像の中心がずれています。

正直なところ、デジタルカメラのライブビュー機能が高性能になってきているので、あえてこのようなツールが必要なのかなあと懐疑的に思っていたのですが、実際に試してみると、回折像の位置を見ながら、目盛りを合わせる感覚でピントが決められるので、すこぶる快適でした。

メガが大好き アメリカンな接眼部

我が家にある鏡筒は 20 年を超える古参ばかりなので、接眼部はφ24.5mm のいわゆるツァイスサイズになっています。φ24.5mm のアイピースについては、長年買い増しをして 25mm から 5mm までのラインナップをひとつお揃えしてきたので、これまであまり観望に不自由は感じることなく使用をしてきました。しかし、最近の高視野、ハイアイリレーフのアイピースと比較すると、やはり使用感がいまひとつで、何を今更といわれそうですが、アイピースの入れ替えを考えるとようになってきました。

そんな訳で、まずはアメリカンサイズのアイピースを鏡筒に取りつけるようにしなければなりません。しかし、古い鏡筒では、今更そのような付属品を望むべくも無く、苦肉の策で一眼前部のリアキャップに天頂プリズムを取り付ける工作をして、直焦点撮影用のカメラマウント経由でアイピースを取り付けられるようにしました。

ということで、鏡筒に一式を取り付けた様子が右上の写真です。この接眼部によって、古い鏡筒に新しい応用が広がりそうで、とても期待しています。

でも、調子のいい話ばかりではありません。写真に写っている鏡筒は表面にも登場した Pentax 105EDHF なの

ですが、同じ接眼部を 75EDHF に取り付けてみたら、内ピンで合焦しないことが発覚してしまいました。また、この接眼部は Nikon マウントに接続しているのですが、知っている人は知っているとおり、Nikon はマウントを閉める向きと、接続リングのネジを閉める向きとが逆方向なので、マウントを閉めると他の部分のネジが緩んでしまうという使い勝手の悪さを潜在的に抱えています。

そんなことで、早速に、作り変えの検討をするはめに陥っています。まあ、せつかく作ったのだからしばらくは使うのですが。。



Books & CDs タイムラプス動画撮影テクニック／竹内宗一郎・驚きの星空撮影法／谷川正夫

デジタル一眼レフ(又はミラーレス一眼)が普及してきて、高画質で撮影できる ISO 感度も高くなり、そこそこ星空が写るといレベルの写真を短時間露出で大量に撮影できるようになりました。

そのような背景のもとに、新しい星空撮影の手法として、①タイムラプス動画と②星空へのスタック処理の適用という新しい地平が開け、楽しみの幅が広がっています。

このような新テクニックについて、撮影の勘どころを紹介した2つの書籍が相次いで発売されました。

「タイムラプス動画撮影テクニック」のほうは、星空撮影の基本的なところから始まって、動画の作品に仕上げるまでを基本に忠実かつ丁寧に説明されています。

一方で「驚きの星空撮影法」のほうは、肝心のスタック処理のほうは試験的適用の域を出ておらず、おまけに作

例写真がオーストラリアなど空が暗いところで撮影されたものが多くて、あまり国内では参考にならないというか、比較してはいけないというか、とても残念なところでは



編集雑記

今月は星の写真はナシです。とにかく晴れません。サラリーマンが星野写真を撮りに行くとなると、天候と休日とやる気の3拍子が揃う必要があるのですが、ますますチャンスが減ってまいります。しかし、ひと夏なんにもしませんでした・・・というのも辛いので、一発必中で特定の天体を狙うしかないかなあとも思っています。

まずは、最近仲間うちで話題になってるフラット撮影をきちんとやって、淡い天体を狙おうかなあ。

Kz_Wada 和田一人 Kazuto.wada@nifty.com